

柏陵同窓会東京支部を辿ります

今回は、柏陵同窓会東京支部の歴史について少し辿ってみたいと思います。

県立柏原高等学校は明治30年（1897年）兵庫県立柏原尋常中学校として開校、その後兵庫県柏原中学校と改称されました。同窓会は、兵庫県柏原中学校（旧制）が明治35年（1902年）に「学友会」を、県立柏原女学校（旧制）が明治37年（1904年）に「松柏会」をそれぞれ創設しています。

丹波出身者の会である東京氷上郷友会（現関東氷上郷友会）の活動が旧制柏原中学校創設前の明治30年代初頭にはなされていたこともあり、戦前の柏陵同窓会東京支部は、支部独自の目立った活動は行なわれていなかったようです。

ただ戦後になると、昭和23年（1948年）の旧制2校の合併による兵庫県立柏原高等学校（新制）誕生を経て、昭和26年（1951年）に柏陵同窓会が創立し、4年後の昭和30年（1955年）には柏陵同窓会東京支部の設立へと発展します。また、旧制女学校から続く松柏会東京支部も柏陵同窓会東京支部に合流し現在に至ります。

明治30年の母校の開校に比べると東京支部の創設が戦後とは意外な気がしますが、関東氷上郷友会が旧交を温める機能を担っていたと思われます。現代と異なり鉄道網も十分には発達していなかった明治・大正から昭和にかけての時代に、諸先輩たちはどのような気概を持って福知山線と東海道線を乗り継ぎ丹波から首都東京を目指されたのでしょうか。

遠くで「故郷」の三番の歌詞が聞こえてきます。

” 志を果たして いつの日にか 帰らん
山は青き 故郷 水は清き 故郷 ”

東京のお盆は新暦の7月に終わりましたが、故郷のお盆は旧暦のこれからです。東京支部の諸先輩たちを忍び、” ユリの花 ” と ” 丹波の山芋 ” をお供えいたします。

令和3年8月11日 文責 東京支部支部長 谷 敬三（21回生）

